

# ガ行鼻音の継承と実現

——伝統芸能での扱われ方——

本 橋 楓

## 1. はじめに

多くのガ行鼻音研究で結論とされるのが衰退論である。複数の先行研究から、ガ行鼻音話者の急激な減少傾向がうかがえる。しかし音楽や伝統芸能の世界では現在も、ガ行鼻音が使用されている。これまで、ガ行鼻音が、どこでどのように保たれているのかについて明らかにすべく、研究を続けてきた。

2018年にはガ行鼻音が特定の分野で継承される理由を明らかにするため、音楽教育との関係性を軸にした調査を実施した<sup>(1)</sup>。

専門的な音楽指導を受けている若年層と、受けていない若年層を比較した結果からは、専門的な指導のもと教育を受けた場合、自然発話でのガ行鼻音の使用が、指導を受けない人よりも増加することが明らかとなった。衰退する一方と言われながらもガ行鼻音使用は若年層にも認められ、また、専門的な音楽教育が個人のガ行鼻音使用を高める可能性があることを示す結果となった。

本稿では、2018年調査に続き、伝統芸能継承者を対象に調査を実施した。複数の分野から伝統芸能継承者の皆様にご協力いただき、ガ行鼻音使用について調査を行うものである。分野ごとのガ行鼻音の使用状況と伝承理由について明らかにしていきたい。

## 2. アンケート調査

### 2.1 概要

調査方法としては、伝統芸能継承者に対して、産出調査と知覚調査を中心に意識調査を行った。

産出調査は、日常使用語に加え、邦楽詞章から抽出した単語を用いた、2種類の調査を行い、ガ行鼻音の発現に差がみられるかを検証する。なお、能・狂言・長唄を、主な調査対象である伝統芸能として位置付け、能と長唄に共通する詞章から単語を選定することとした。

具体的には、能『安宅』、長唄『京鹿子娘道成寺』の2曲から抽出している。『安宅』は、長唄では『勧進帳』に振り入れられた曲である。『京鹿子娘道成寺』は『安宅』から取り出しきれなかったガ行鼻音語彙を補う形で使用した。

## 2.2 産出調査

### ①日常使用語

語中にガ行子音を含む語、助詞「が」を含んだ短文を示し、読み上げてもらう。ガ行非鼻音を含む語も加え、ランダムに構成し調査する。

調査語は『NHK 日本語発音アクセント新辞典』（2016）をはじめとする、参考文献に掲載した4種のアクセント辞典で鼻濁音標記のある語を基に作成した。年代によって掲載語彙に差はあるが、鼻音・非鼻音の差はなかった。調査語彙は以下のとおりである。

ガ行鼻音：柳、十五夜、管楽器、中学校、七五三、葉書、源五郎、ダイニング、逃げる、人間界、道具箱、かぐわしいにおいて

ガ行鼻音・非鼻音どちらでも発話される語：不合格

助詞「が」とガ行鼻音を含む語で構成された短文

願いどおりだ、私が行きます、すごい話だ、5時頃会いましょう、かぐわしい  
において

ガ行非鼻音：科学技術（科学はガ行鼻音）、ハンバーガー、マンガー、朝ごはん、林間学校

### ②邦楽詞章からの語

調査語は能『安宅』と、長唄『京鹿子娘道成寺』から以下の語を抽出した。

語中だけでなく、語頭にガ行が現れる語も採用している。文頭以外の語頭にガ行がある場合、鼻音に発音されるかについても調査する。

加賀の国富樫の何某にて候

時しも頃は如月の

言語道断の御事にて候ふものかな

いかに強力

御篠懸を脱ぎ替へて

金剛杖にすがり

さらば最後の勤めを始めて

役の優婆塞の行義を受け

八葉の蓮華を踏まへたり

高らかにこそ読み上げけれ

謀にあらず

花の都は歌で和らぐしき嶋原に

なまぐさばんだばさらんだ

## 2.3 知覚調査

産出調査と同様、4種のアクセント辞典に従って作成した。

ガ行子音を含む語と短文を、ガ行鼻音と非鼻音の2通りの音声で2度流し、聞き心地が良いと感じた音声を選択してもらう。調査語彙は以下のとおりである。

ガ行鼻音：春霞、七五調、飛行機雲、株式会社、鏡、口喧嘩、雨雲

ガ行非鼻音：カラ元気、白ごま

## 2.4 インフォーマント

人数 40名

年齢 20代3名、30代7名、40代16名、50代8名、60代5名、70代1名

出身地 東京都18名、京都府7名、愛知県3名、群馬県2名、兵庫県2名、茨城県、  
大分県、埼玉県、長崎県、広島県、福岡県、三重県、山口県それぞれ1名  
分野 能8名、狂言12名、長唄11名、落語6名、講談2名、薩摩琵琶1名

### 3. 全体調査結果

全体の産出・知覚調査の結果について示した後、能・狂言・長唄伝承者の結果についてまとめる。

#### 3.1 産出調査結果① 日常使用語

まず、日常使用語について結果を示す。

日常使用語の結果は、非鼻音での発音が多くみられた。鼻音で発音された割合が過半数を上回った語は〔葉書〕〔人間界〕〔私が行きます〕〔逃げる〕である。非鼻音が優勢な中、4項目においてガ行鼻音の使用が高まった理由について以下で考察する。また、半数が鼻音で発音した〔柳〕〔願いどおりだ〕〔かぐわしいにおい〕についても同時に考察する。結果については、以下のように示す。

（非）と記載があるものは、非鼻音で発音する語である。

○の列はガ行鼻音で発音された割合、×の列はガ行非鼻音で発音された割合である。

科学技術（カガクギジュツ）は、ガ行が2ヶ所のため細分化して記載する。

ガ・ギに鼻音を使用の場合は○○、ガのみ鼻音を使用の場合は○×、ギのみ鼻音を使用の場合は×○、鼻音を使用しなかった場合は××とする。結果は％で示す。

	柳	十五夜	管楽器	中学校	不合格	七五三	葉書	源五郎
○	50.0	35.0	42.5	22.5	27.5	35.0	57.5	30.0
×	50.0	65.0	57.5	77.5	72.5	65.0	42.5	70.0

	ハンバーガー （非）	朝ごはん （非）	林間学校 （非）	人間界	ダイニング	マンゴー （非）	願い どおりだ
○	25.0	20.0	40.0	52.5	25.0	27.5	50.0
×	75.0	80.0	60.0	47.5	75.0	72.5	50.0

	私 が行きます	人混み	逃げる	すごい話だ	5時頃会い ましょう	かぐわしい におい	道具箱
○	55.0	35.0	52.5	35.0	30.0	50.0	27.5
×	45.0	65.0	47.5	65.0	70.0	50.0	72.5

科学技術			
○○	○×	×○	××
10.0	27.5	0.0	62.5

### ○直前の撥音による順行同化

ガ行直前に撥音がある場合、鼻音化しやすくなる現象については、先行研究<sup>2)</sup>において指摘されてきた。[人間界]でガ行鼻音が優勢となったのも、直前の撥音による順行同化の影響が考えられる。

### ○助詞の鼻音化

『全国アクセント辞典』(1960)における解説を示す。

そのほか、「が、ぐらい、ごとし」など助詞や助動詞で、語頭が鼻音の<sup>カ</sup>となるものがある。これは、本来付属語として「花が、それぐらい、雪のごとし」のように、一息に発音されるアクセント節の、中または末尾の音節にくるものであるから、鼻音化が固定しているものと思われる。

[私が行きます]は、これにあてはまることで、ガ行鼻音の使用が高まったと考えられる。

### ○語種とガ行鼻音

[<sup>はがき</sup>葉書][逃げる]について考察する。

ガ行鼻音と語種との関係は、相澤正夫(1994)(1995)、日比谷潤子(2002)において言及されている。相澤正夫(1994)「語種の面からみると、和語の保持率が漢語、外来語より高いことは確かなようである。」とあるとおり、和語が、ガ行鼻音使用に関わっていると推測できる。

和語によるガ行鼻音化は[柳][願いどおりだ][かぐわしい]にも適応される。強い鼻音化傾向はみられないとしても、半数が鼻音で発音したことは和語の影響を受けたと考えて良いだろう。

### ○先行子音 n の影響

ガ行鼻音使用が50%以上となった語について示す。

柳	ya <sup>n</sup> agi	私が行きます	watashigaikimasu
葉書	hagaki	逃げる	<sup>n</sup> igeru
人間界	ni <sup>n</sup> genkai	かぐわしいにおい	kaguwashiinioi
願いどおりだ	<sup>n</sup> egaidoorida		

以上のようにガ行の先行子音に注目すると、7つ中4つの語で先行子音 n が確認できる。このことから、先行子音に鼻音のあることで、ガ行鼻音使用が増える傾向が考えられる<sup>3)</sup>。

## 3.2 産出調査結果② 邦楽詞章からの語

言語道断(ゴンゴドウダン) 行儀(ギョウギ)は細分化して示す。

	加賀	富樫	何某	如月	強力	脱ぎ替へて	金剛杖
○	60.0	55.0	62.5	72.5	12.5	55.0	72.5
×	40.0	45.0	37.5	27.5	87.5	45.0	27.5

	すがり	最後	蓮華	上げ	謀	和らぐ	なまぐさ
○	50.0	47.5	67.5	67.5	67.5	50.0	37.5
×	50.0	52.5	32.5	32.5	32.5	50.0	62.5

言語道断			
○○	○×	×○	××
0.0	0.0	65.0	35.0

行儀			
○○	○×	×○	××
10.0	0.0	27.5	62.5

日常使用語の調査と比べガ行鼻音使用が増加している。

鼻音化が強まった理由について以下で考察する。

#### ○直前の撥音による順行同化

これについては先述したとおりである。邦楽詞章からの語を用いた調査においても、この傾向が確認できた。

該当調査語：言語道断<sup>(4)</sup>、金剛杖、蓮華

#### ○先行子音 n の影響

ガ行鼻音使用が50%以上となった語について示す。

何某 na[n]igashi

金剛杖 ko[n]gouzue

言語道断 go[n]godoudan

蓮華 re[n]ge

脱ぎ替へて [n]ugikaete

先述したとおり、先行子音 n は鼻音化に強い影響力をもつことが言える。

#### ○語頭におけるガ行鼻音の使用

語頭にガ行のある<sup>ごうりき</sup> [強力] [行儀] について注目する。

語頭については『NHK 日本語発音アクセント新辞典』（2016）において「単語の最初〔＝語頭〕では、「ふつうのガ行音」が現れる（「ガ行鼻音」は現れない）」とされている。しかし、本結果では一部、鼻音を使用した例がみられた。これについて2つの要因を挙げる。

1つ目として「過剰鼻音」が考えられる。本調査は、ガ行鼻音調査と明示して調査を行った。結果、ガ行鼻音を過剰に意識し、使用したことが考えられる。また、ガ行鼻音の法則を理解していないことで過剰使用されたとも考えられるだろう。

2つ目は、先行子音 n の問題を挙げる。本調査は単純語ではなく、短文を用いて行った。

いか<sup>[ㇿ]</sup>強力 ika<sup>[ㇿ]</sup>i gouriki

役の優婆塞<sup>[ㇿ]</sup>行義を受け en no ubasoku <sup>[ㇿ]</sup>o gyōgi wo uke

単純語の前に先行子音 n が確認できる。単純語としてはガ行が語頭にあったとしても、文中では語頭の意識が薄れ、先行子音の影響を受ける可能性が考えられるだろう。

### 3.3 知覚調査結果

鼻音の列は、ガ行鼻音の聞き心地が良いと答えた割合、非鼻音の列は、ガ行非鼻音の聞き心地が良いと答えた割合である。わからないの列は、鼻音・非鼻音の区別がつかなかった、または、どちらでもよいとした割合を示している。

	春霞	七五調	飛行機雲	株式会社	鏡	口喧嘩	雨雲	カラ元気 (非)	白ごま (非)
鼻音	52.5	47.5	50.0	50.0	77.5	52.5	52.5	17.5	25.0
非鼻音	45.0	50.0	45.0	35.0	20.0	45.0	47.5	77.5	72.5
わからない	2.5	2.5	5.0	15.0	2.5	2.5	0.0	5.0	2.5

アクセント辞典においてガ行鼻音の記載がある語は、ガ行鼻音・非鼻音ともに、ほぼ半数ずつの支持数となった。しかし[鏡]においてはガ行鼻音支持が高まり、例外的な結果となった。これについては、本稿で明確な理由を導き出すに至っていない。

非鼻音支持の中では、アクセント辞典において非鼻音の語とされる[カラ元気]でその割合が最も高い。非鼻音で発音する語に鼻音を使用することは、大半が違和感を覚えると考えて良いだろう。[白ごま]に関しても同じ考察ができる。

「わからない」の回答が最も多かったのは[株式会社]であった。以下で分析する。

#### ○ [株式会社] について

回答に迷う率が15%と最多である要因として、連濁であることが挙げられる。

『NHK 日本語発音アクセント新辞典』(2016)において、株式会社が分類されている項目の解説には「語頭がもともと「カ行」だったことが、複合語の後ろの要素としてガ行になったもの(カ行の連濁)も、「ガ行鼻音」で現れる」とある。

一方、尾崎喜光(2015)は、ガ行鼻音の衰退が進行する理由として連濁の影響を指摘している。

語頭の無声音の[k]は、複合語で連濁が生じると有声音の[g]となるのが自然である。たとえば「事(こと)」の語頭の子音は無声音の[k]だが、「大(おお)」が付いて複合語「大事」となると、[k]に対応した[g]で発音するのが自然であり体系的にも整う。つまり、無声子音を語頭に持つ単純語を、複合語の後部要素としかつ連濁させる場合は、同じ調音点の有声音で対応させる(有声音に変える)というルールが働くため、カ行音

がかかわる複合語では、[ŋ] よりも [g] の方が自然だということになる。(…) ガ行鼻音の衰退にはこうした「連濁」という事情も関与している可能性がおおいに考えられる。

上記のことから、連濁の影響により、非鼻音化が進行しているとも考えられる。

「わからない」の回答が一定数みられることは「従来の連濁におけるガ行鼻音化」と「体系的に自然である連濁によるガ行非鼻音化」のどちらの場合でも違和感を覚えないことの表れであると考えられる。[株式会社] の結果は、連濁がガ行非鼻音に統一される過渡期を表していると言えるのではないか。

#### ○連濁の影響

連濁の影響について他の語でも検証する。知覚調査において連濁を起こしている語を示す。

	春霞	飛行機雲	株式会社	口喧嘩	雨雲
鼻音	52.5	50.0	50.0	52.5	52.5
非鼻音	45.0	45.0	35.0	45.0	47.5
わからない	2.5	5.0	15.0	2.5	0.0

鼻音が圧倒的に支持されているとは言えない。ガ行鼻音を重視する傾向にある伝統芸能継承者であっても、日常使用語ではガ行非鼻音を好む傾向が強まっていると推測される。

尾崎氏が指摘するとおり、連濁においてはガ行非鼻音化が進行する可能性が考えられるだろう。

### 4. 分野ごとの調査結果

本稿において主な芸能とした、能・狂言・長唄の伝承者について分析する。

#### 4.1 能楽師 8 名

(1) 産出調査結果 日常使用語

	柳	十五夜	管楽器	中学校	不合格	七五三	葉書	源五郎
○	50.0	25.0	25.0	25.0	37.5	37.5	62.5	12.5
×	50.0	75.0	75.0	75.0	62.5	62.5	37.5	87.5

	ハンバーガー (非)	朝ごはん (非)	林間学校 (非)	人間界	ダイニング	マンガ (非)	願い どおりだ
○	25.0	25.0	37.5	50.0	12.5	12.5	62.5
×	75.0	75.0	62.5	50.0	87.5	87.5	37.5

	私が 行きます	人混み	逃げる	すごい話だ	5 時頃会い ましょう	かぐわしい におい	道具箱
○	50.0	37.5	62.5	37.5	50.0	50.0	37.5
×	50.0	62.5	37.5	62.5	50.0	50.0	62.5

科学技術			
○○	○×	×○	××
25.0	0.0	0.0	75.0

非鼻音での発音が過半数を占める結果となった。

## (2) 産出調査結果 邦楽詞章からの語

	加賀	富樫	何某	如月	強力	脱ぎ替へて	金剛杖
○	50.0	37.5	50.0	50.0	0.0	50.0	75.0
×	50.0	62.5	50.0	50.0	100.0	50.0	25.0

	すがり	最後	蓮華	上げ	謀	和らぐ	なまぐさ
○	62.5	37.5	87.5	87.5	50.0	50.0	37.5
×	37.5	62.5	12.5	12.5	50.0	50.0	62.5

言語道断			
○○	○×	×○	××
0.0	0.0	37.5	62.5

行儀			
○○	○×	×○	××
0.0	0.0	25.0	75.0

全体結果と比べ、ガ行鼻音の使用は高くないようにみえる。しかし、50%の結果が多いことから、能楽師のインフォーマントの半数は安定的にガ行鼻音を使用していることが推測できる。

また、語頭の鼻音使用は0%であった。能で行われる厳格な指導によって、ガ行鼻音の基本的な定義は現代でも守られていると考えられる。

## (3) 知覚調査結果

	春霞	七五調	飛行機雲	株式会社	鏡	口喧嘩	雨雲	カラ元気 (非)	白ごま (非)
鼻音	62.5	37.5	37.5	37.5	75.0	50.0	37.5	12.5	0.0
非鼻音	37.5	50.0	37.5	50.0	25.0	50.0	62.5	87.5	87.5
わからない	0.0	12.5	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5

全体結果とほぼ同様の結果となった。



「わからない」については〔飛行機雲〕において最も高い値が確認できる。これは先述したとおり、連濁の影響と考えていいだろう。

#### （４）意識調査結果

問：鼻濁音についてどのように習いましたか

	芸歴	出身地	流儀	学習場面	回答
A-1	50	京都府	観世流	稽古	口伝え 耳から聞く
A-2	19	東京都	観世流	稽古	語中は濁らない
A-3	23	愛知県	観世流	稽古	口伝え 真似 固有名詞は使わない
A-4	34	東京都	宝生流	稽古	口伝え 真似 鼻を使う 鼻にかける
A-5	35	京都府	金剛流	音楽の授業	「ん」をいれる 柔らかくなる
A-6	44	東京都	喜多流	稽古	汚く聞こえないよう丸める 尖らせない
A-7	41	広島県	喜多流	上京後の稽古	口伝え 真似 丸く歌う 鼻から抜けるように 語頭は必要ない
A-8	13	東京都	高安流 (金剛流の座付)	大学の授業 能サークル 稽古	口伝え 鼻に抜けるように

主な回答は、口伝えや真似であった。聞いて覚えることが主流であることがわかる。

ここで、**A-5**が京都府出身であることについて触れておきたい。同じく京都府出身の**A-1**が稽古でガ行鼻音の指導があったとしているため断定は難しいが、ガ行鼻音を使用語に持たない地域においては、能楽師であってもガ行鼻音が伝承されにくくなっている可能性が考えられる。

またここでは、流派ごとの特徴についても触れたい。宗家が江戸にうつっている観世流は、ガ行鼻音への意識が強く、京都で伝承されている金剛流は、ガ行鼻音が伝承されにくいことが考えられる。

能楽師の出身地のみならず、流派の伝承地によって、意識に違いがあることがいえるだろう。

問：伝統芸能における鼻濁音の必要性について教えてください

	芸歴	流儀	回答
A-1	50	観世流	習慣 伝統 型 非鼻音だと汚い 役で変える 女性使う 老人使わない 柔らかに聞こえるように
A-2	19	観世流	伝統 美しい 役では変えない 粒立ちは弱まる 流れはソフトになる
A-3	23	観世流	綺麗 美しく聞こえる 発音として必要 能は強い発音を嫌う 女性は鼻音強め 鬼などは鼻音弱め
A-4	34	宝生流	鼻濁音でないと違和感がある 客にとって聞き心地が良い 雰囲気ができる
A-5	35	金剛流	能で鼻濁音は意識しない 鼻濁音の教育は受けていない 表現の多様性が広がる
A-6	44	喜多流	伝統 美しく聞こえさせる 格調を醸し出す 雰囲気がでる 柔らかい印象になる 耳に当たりがいい 語頭はハッキリめの鼻濁音
A-7	41	喜多流	発声としての美しさ 耳障りではないようにする
A-8	13	高安流 (金剛流の座付)	伝統

伝統という意見が多く挙げられた。能では「型」をいかに崩さず伝承するかを重視していることがわかる。またガ行鼻音を使用することで、客の耳に当たりが悪くならないよう意識していることも明らかとなった。

注目すべき回答は **A-1（観世流）**「役によって鼻音を使い分ける」というものであろう。これは **A-3（観世流）** にもみられた意見であった。これらの回答のみでは、分野の特徴とは考えにくい。能楽師が役を表現する方法の一つとしてガ行鼻音を扱っている可能性が考えられる。

またここでは、流派ごとの特徴についても触れたい。宗家が江戸にうつっている観世流は、ガ行鼻音への意識が強く、京都で伝承されている金剛流は、ガ行鼻音が伝承されにくいことが考えられる。

能楽師の出身地のみならず、流派の伝承地によって、意識に違いがあることがいえるだろう。

## 4.2 狂言師12名

### (1) 産出調査結果 日常使用語

	柳	十五夜	管楽器	中学校	不合格	七五三	葉書	源五郎
○	16.7	8.3	50.0	8.3	0.0	25.0	25.0	16.7
×	83.3	91.7	50.0	91.7	100.0	75.0	75.0	83.3

	ハンバーガー (非)	朝ごはん (非)	林間学校 (非)	人間界	ダイニング	マンガ (非)	願い どおりだ
○	8.3	0.0	41.7	33.3	16.7	8.3	16.7
×	91.7	100.0	58.3	66.7	83.3	91.7	83.3

	私が 行きます	人混み	逃げる	すごい話だ	5時頃会い ましょう	かぐわしい におい	道工具箱
○	25.0	16.7	25.0	8.3	0.0	16.7	0.0
×	75.0	83.3	75.0	91.7	100.0	83.3	100.0

科学技術			
○○	○×	×○	××
0.0	8.3	0.0	91.7

4項目において非鼻音の使用が100%となり、非鼻音が優勢となった。

半数が鼻音で発音した「管楽器」については、撥音の順行同化の影響が考えられる。

### (2) 産出調査結果 邦楽詞章からの語

	加賀	富樫	何某	如月	強力	脱ぎ替へて	金剛杖
○	41.7	50.0	58.3	50.0	8.3	50.0	58.3
×	58.3	50.0	41.7	50.0	91.7	50.0	41.7

	すがり	最後	蓮華	上げ	謀	和らぐ	なまぐさ
○	16.7	33.3	58.3	50.0	41.7	25.0	25.0
×	83.3	66.7	41.7	50.0	58.3	75.0	75.0

言語道断			
○○	○×	×○	××
0.0	0.0	58.3	41.7

行儀			
○○	○×	×○	××
0.0	0.0	33.3	66.7

全体の結果同様、日常使用語での結果と比べガ行鼻音使用が高い。

「何某」については先行子音 n の影響、「金剛杖」「蓮華」「言語道断」については、撥音

の順行同化の影響があったものと言えよう。

### (3) 知覚調査結果

	春霞	七五調	飛行機雲	株式会社	鏡	口喧嘩	雨雲	カラ元氣 (非)	白ごま (非)
鼻音	33.3	33.3	25.0	41.7	66.7	41.7	50.0	8.3	25.0
非鼻音	58.3	66.7	75.0	41.7	25.0	50.0	50.0	83.3	75.0
わからない	8.3	0.0	0.0	16.7	8.3	8.3	0.0	8.3	0.0

全体調査とほぼ同様の結果である。

狂言師はガ行鼻音を好まない傾向が明らかとなった。今回の狂言師のインフォーマントが、ガ行非鼻音使用地域出身者が多いことが関係していると考えられる。

出身地詳細については、意識調査に記載する。

### (4) 意識調査結果

問：鼻濁音についてどのように習いましたか

	芸歴	出身地	学習場面	回答
B-1	68	京都府	稽古	真似
B-2	66	京都府	小学校の国語	鼻濁音の紹介
B-3	52	京都府	稽古 キャスター	口伝え 真似 放送業界：語頭は使わない
B-4	45	京都府	稽古	口伝え 鼻にかかった音
B-5	34	京都府	大学の授業 稽古	大学：「ん」をつける 稽古：濁るな
B-6	47	東京都	能の稽古	真似 むき出しにしない 飲み込むように 音をたてない
B-7	38	東京都	稽古 小学校の国語	稽古：鼻に抜いて 真似 国語：んがー
B-8	36	東京都	稽古	「ん」を前に入れる 真似 鼻濁音にする
B-9	37	東京都	稽古	台詞として習う 口伝え 鼻に抜く 強くないように
B-10	36	兵庫県	稽古 中学校の放送部	稽古：ガ行を柔らかく 放送部：「ん」をいれる 聞き心地が良く耳につきにくい
B-11	28	大分県	大学の演劇 劇団の発声練習	真似 正しい日本語である
B-12	35	山口県	能の稽古	「ん」をつける 口伝え

共通してみられる回答は、口伝えや真似であった。能と同様、発音の具体的な方法を指導することは少ないことが確認できる。

問：伝統芸能における鼻濁音の必要性について教えてください

	芸歴	回答
B-1	68	文の流れとして美しくなる 狂言は言葉を濁さない
B-3	52	役で使い分ける 恋愛ものは鼻濁音を使う
B-4	45	滑らか 柔らかい 聞きやすい 綺麗 凹凸が少ない 耳障りでない 客に台詞を伝えるのに必要
B-5	34	役で使い分ける 役者としてアドバンテージになる 非鼻音が99% 鼻音が1% 技術の1つ すべて鼻音では面白くない
B-6	47	狂言は言葉を聞いてもらう 濁音を立てるときは下賤な人間を表す 意識として大事
B-7	38	伝統として残すべき 耳に入りやすい 聞きやすい 非鼻音は強い印象 語頭は非鼻音 語中は鼻音
B-8	36	狂言は言葉で表現 言葉を大事にする 一字一句聞き逃してほしくない 濁音は引かかる 言葉の美しさ
B-9	37	昔からのイントネーションを残す 教わったことを伝える
B-10	36	狂言＝セリフ劇 生の台詞をとどける ガチャガチャしない綺麗なもの 客の耳障りが良い 役での使い分けはない
B-11	28	耳に入ってきやすい ソフト とげとげしくない 狂言は会話なので時代に影響される 役で変えることはない
B-12	35	台詞を滑らかにする

「狂言は言葉を伝える芸能である」との回答が目立つことから、客に言葉を伝えることを重視していることがわかる。

「狂言は会話なので時代に影響される」との意見も興味深い。ガ行非鼻音話者が増加している現状が、そのまま反映される可能性も大いに考えられるだろう。

### 4.3 長唄11名

#### (1) 産出調査結果 日常使用語

	柳	十五夜	管楽器	中学校	不合格	七五三	葉書	源五郎
○	72.7	63.6	36.4	27.3	36.4	45.5	81.8	45.5
×	27.3	36.4	63.6	72.7	63.6	54.5	18.2	54.5

	ハンバーガー (非)	朝ごはん (非)	林間学校 (非)	人間界	ダイニング	マンガ (非)	願い どおりだ
○	27.3	27.3	45.5	54.5	36.4	54.5	63.6
×	72.7	72.7	54.5	45.5	63.6	45.5	36.4

	私が 行きます	人混み	逃げる	すごい話だ	5 時頃会い ましょう	かぐわしい におい	道工具箱
○	72.7	36.4	63.6	36.4	36.4	72.7	45.5
×	27.3	63.6	36.4	63.6	63.6	27.3	54.5

科学技術			
○○	○×	×○	××
18.2	36.4	0.0	45.5

長唄においては、ガ行鼻音化しやすい傾向にあると言えよう。

#### (2) 産出調査結果 邦楽詞章からの語

	加賀	富樫	何某	如月	強力	脱ぎ替へて	金剛杖
○	72.7	72.7	72.7	100.0	27.3	45.5	81.8
×	27.3	27.3	27.3	0	72.7	54.5	18.2

	すがり	最後	蓮華	上げ	謀	和らぐ	なまぐさ
○	63.6	63.6	81.8	72.7	9.1	63.6	45.5
×	36.4	36.4	18.2	27.3	90.9	36.4	54.5

言語道断			
○○	○×	×○	××
0.0	0.0	81.8	18.2

行儀			
○○	○×	×○	××
9.1	0.0	27.3	63.6

日常使用語を上回るガ行鼻音使用が確認できる。特に〔如月〕については、全員鼻音で発音した。調査は〔如月の〕を読み上げてもらう形をとっている。〔の〕が鼻音を持つことで、n の逆行同化がおきたと考えられる。ガ行鼻音使用が100%となるのは長唄唄方への調査の

みであり、興味深い結果となった。

語頭にガ行鼻音の使用があったことについても注目する。割合としては少ないものの、長唄において、語頭にもガ行鼻音を使用する傾向が少なからず考えられる。

語頭での鼻音使用理由としては、全体結果において、過剰鼻音と先行子音 n の影響を考察した。ここではそれらに加え、分野独自の特徴であることを考えたい。

長唄は音楽としての色あいが強い流派である。語の流れを追求した結果、語頭のガ行鼻音使用に繋がった可能性が考えられるだろう。

### (3) 知覚調査結果

	春霞	七五調	飛行機雲	株式会社	鏡	口喧嘩	雨雲	カラ元気 (非)	白ごま (非)
鼻音	72.7	54.5	54.5	54.5	81.8	45.5	45.5	27.3	9.1
非鼻音	27.3	45.5	45.5	36.4	18.2	54.5	54.5	72.7	90.9
わからない	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

全体調査とはほぼ同様の結果となった。

### (4) 意識調査結果

問：鼻濁音についてどのように習いましたか C-9は教育を受けていないため記載なし

	芸歴	出身地	学習場面	回答
C-1	22	東京都	稽古 聖歌隊	和：真似 西洋：nを入れる 鼻にかける 鼻声
C-2	15	東京都	稽古	口伝え 鼻音の方が綺麗
C-3	45	長崎県	前進座 稽古	前進座：んが 稽古：口伝え 語頭語中の注意
C-4	33	東京都	稽古	真似 口伝え
C-5	34	愛知県	稽古 小学校の音楽	口伝え
C-6	52	東京都	稽古 家庭での教育	口伝え
C-7	48	東京都	稽古	真似
C-8	42	東京都	小学校の音楽 前進座	「ん」をいれる
C-9	45	東京都		
C-10	30	埼玉県	稽古	真似 小返し 非鼻音は「生」
C-11	35	群馬県	稽古 音楽の授業	稽古：んが 助詞「が」柔らかく 鼻にかける nを入れる 音楽：歌詞を読む

主な回答が口伝えや真似であるものの、能とは違い、発音の具体的な方法も指導されてい

ることがわかる。

問：伝統芸能における鼻濁音の必要性について教えてください

	芸歴	回答
C-1	22	鼻濁音の使用が基本 役で変える 江戸弁 輪郭の区別
C-2	15	受け継いだ文化と技術 非鼻音は乱暴に聞こえるので日本語が崩れて聞こえる
C-3	45	濁音は耳に立つ 江戸弁に近い形 語り物では濁音
C-4	33	歌の美しさを引き出す 詞章がそういう風にできている 役では変えない 語頭は非鼻音
C-5	34	美しい
C-6	52	伝統 長唄は江戸弁が標準
C-7	48	本来の日本語 文化として残す
C-8	42	文脈・語の分かつがはつきりする 全国統一の芸能では鼻濁音を使うべき 江戸弁を使うことはある
C-9	45	美しい 耳障りが良い 濁音は汚い
C-10	30	鼻音も音楽の音の一つ 客にききとりやすい 耳に引っかからない 綺麗
C-11	35	江戸弁は鼻濁を使うべき洗練されたもの

ガ行鼻音の使用により、美しくなるとの意識が高いことがわかる。

また「音楽に必要不可欠である」という考えもみられた。音楽とは切り離せない特徴を持つことに加え、学校での音楽教育の影響も重なり、そのような意識が高まったと考えられる。

## 5. 考察

各分野におけるガ行鼻音の扱われ方と、本調査結果について比較検討する。

### ①能

『音曲玉淵集』宝暦12（1762）年の記述を示す。

一がぎぐげご

此濁音は鼻へ入仮名也 此濁音とはね字は少しは鼻へひゞかせねばならぬ事也

それを鼻に戸たつるやうに唱へては文字平く成甚いやしく聞ゆ

鼻へ入字上下の仮名へひゞかぬやうに用心すべし

○こがれ行 いさぎよき 見ぐるしき かげきよ なごりは思ふ

鼻へ響かせるとの表現から、鼻腔への共鳴を意識していることがわかる。これはガ行鼻音



の発音と同じものとして間違いないだろう。これをそのまま現在まで伝承しているとは考えにくいものの、ガ行鼻音の伝統があることは確認できる。

調査結果での能楽師からの主な回答は、口伝えや真似であった。芸能継承地の地域差はあるものの、おおむね鼻を意識することについて指導されている。江戸以来の鼻腔共鳴の意識が受け継がれていると言えるだろう。

## ②長唄

浅川玉兎（1962）『長唄の基礎研究』の解説を示す。

### 二 濁音と鼻音について

濁音は時によると甚だ耳だつて汚く聞える場合があり特に「峨々たる」とか「婆は川へ」の**ががやばば**様に重なっている場合など、そのまま不用意に発音すると、大変に汚く耳ざわりになることが多い。濁音中でも**ザ**行と**ダ**行は、さほどでもないが、ガギグゲゴとバビブベボは特に注意を要し、殊に関西人のガギグゲゴは平素の言語中でも、そうだが、唄となるとなおよ層ギコチなく耳ざわりになり易いから、鼻へ抜いて柔らかく発音することが肝要である。

(…)それから、只今**ガ**行を鼻音化することを述べたが、ナ行及びマ行も、鼻へぬかさなければ発音出来ない音で、これらの三行の熟音と、ンとは、鼻腔への共鳴に特に他の音とちがった特殊な研究が必要である。

「鼻音化」「共鳴」などから、能と同様のガ行鼻音発声を意識していることが考えられる。長唄は、江戸で伝承されてきた芸能であることに加え、唄う芸能であることから、ガ行鼻音を強く保っていると言える。

長唄伝承者への調査では、能・狂言と同様、口伝えや真似という回答が多くを占めた。ただ、一部には「軟口蓋を意識する」などの回答もみられている。これらは、西洋音楽での指導と似通ったものである。

西洋からの影響は避けられずとも、従来の意識は受け継がれていると考えていいだろう。

## ③狂言

各解説書において、ガ行鼻音に関する記述を見つけるには至らなかった。

本調査において、狂言師から「ガ行鼻音はあまり意識しない」との声が多く聞かれたことから、狂言においては、ガ行鼻音を必ずしも意識する傾向にはないことが考えられる。

## 6. おわりに

各芸能において軸となる特徴が存在し、それによってガ行鼻音に対する考えが変化していることがわかった。

能における軸は“型”を重視する考え方である。舞などとともに、発音も型として継承されることで、保持されてきた可能性が高い。

狂言では“語り”の意識が挙げられる。ハッキリとした表現が好まれることで、ガ行鼻音の特徴である柔らかさを嫌う傾向にあることが明らかとなった。

長唄の特徴は“発音技術を教え込む”という指導方法にある。具体的な発音方法について指導を受けることで、ガ行鼻音が定着しやすいと考えられる。

ガ行鼻音を発音技術として意識する特徴は、能と長唄にみられた。両者は“うたう”という共通の要素をもっている。ガ行鼻音を発音技術として伝承してきたからこそ、地域差の影響を抑えながら受け継いでこれたのだと考えられよう。

しかし、厳格な指導がなされている芸能であっても、伝承地・伝承者の出身地・年齢差に逆らうことは難しいことも明らかとなった。現に、ガ行非鼻音地域出身者の発音状況や若年層の意識はガ行非鼻音化に進行しつつある。伝統芸能の分野によっては、ガ行鼻音が衰退する可能性が考えられることを示す結果となった。

## 注

- (1) 本橋楓 (2020)「ガ行鼻音の学習による発話や意識への影響」『国文目白』59
- (2) 尾崎喜光 (2015)、日比谷潤子 (2002) でこの指摘を確認した
- (3) 先行子音 n は林間学校にも認められるが、ガ行鼻音使用が40%なのに加え、非鼻音で発音する語のため取り上げない
- (4) 言語道断の語頭での鼻音使用は0%のため、ここでは語中の結果のみ示す

## 参考文献

- 放送文化研究所 (2016)『NHK 日本語発音アクセント新辞典』NHK 出版  
金田一春彦、秋永一枝 (2002)『新明解日本語アクセント辞典』三省堂  
NHK 放送文化研究所 (1998)『NHK 日本語発音アクセント辞典 新版』NHK 出版  
平山輝男 (1960)『全国アクセント辞典』東京堂出版  
相澤正夫 (1994)「ガ行鼻音保持の傾向性と含意尺度—州蠅市民調査の事例から—」『研究報告集15』(国立国語研究所報告107)  
相澤正夫 (1995)「富良野市におけるガ行鼻音の動向」『研究報告集 16』(国立国語研究所報告110)  
浅川玉兎 (1962)『楽理と実技 長唄の基礎研究』邦楽社、日本音楽社  
尾崎喜光 (2015)「全国多人数調査から見るガ行鼻音の現状と動態」『ノートルダム清心女子大学紀要外 国語・外国文学編、文化学編、日本語・日本文学編』39-1  
坂本清恵 (2015)「謡の連声」『能と狂言』13  
日比谷潤子 (2002)「言語変異の地理的差異」『音声研究』6-3  
三浦庚安、今村義 (1762)「音曲玉淵集」1

## 謝辞

本研究の調査をご快諾いただき協力頂いた伝統芸能継承者の皆様、また、ご指導いただいた坂本清恵教授に心より御礼申し上げます。

ここに伝統芸能継承者の皆様のお名前を記して感謝の意を表したい。(調査順)

味方玄氏、有松遼一氏、佐々木多門氏、川口晃平氏、宇高竜成氏、佐野玄宜氏  
大島輝久氏、久田勘吉郎氏、茂山千五郎氏、茂山あきら氏、茂山千三郎氏、茂山七五三氏  
深田博治氏、山本則重氏、山本則秀氏、茂山忠三郎氏、大藏基誠氏、善竹隆平氏  
米本太郎氏、松本薫氏、星野厚子氏、松永忠一郎氏、今藤政貴氏、塩原庭村氏  
望月太喜之丞氏、杵屋勝英治氏、野口悦至氏、杵屋三澄那氏、杵屋正則氏、杵屋君三郎氏  
伊藤恭子氏、桂夏丸氏、桂しん乃氏、桂右團治氏、橘ノ圓満氏、春風亭一花氏  
春風亭柳朝氏、神田真紅氏、田辺いしか氏、櫻井亜木子氏